



<12月号>

朝三中だより

朝霞市立朝霞第三中学校
令和4年12月1日発行

〒351-0023

朝霞市溝沼 1043-1

TEL 048 (464) 7575

FAX 048 (467) 4742

<目指す学校像> 一人一人が輝き 感動と笑顔あふれる学校

いい偶然

校長 杉山 巖

寒い日が少しずつ増え、学校の周りの木々からも葉が落ち、冬の景色へと移り変わる季節となりました。

学校も、11月25日、29日と学年で日程が分かれましたが、2学期の期末試験を終え、学期末に向かうところです。

新型コロナに関しては、去年は12月に入ったあたりからオミクロン株が出現し、年が明けて1月には急拡大となり、スキー林間学校などの行事の見直しを迫られました。

今年に関してもこれから**第8波**などと言われていますが、今までと違うのは、この2年あまりで**しっかり対策を施せば、もちろんリスクをゼロには出来ませんが、様々な活動が可能であろう**となってきたことです。もちろん、いろいろな制限や制約はまだまだついて回るのは残念ですが、今年度の残りの4ヶ月について、**できる限り『通常』に近い形を目指して**学校の教育活動を実施して参ります。

さて、コロナに限らず、私たちは何かあったとき「なんで、こんな目に遭わなければならないのだろう」と、悲観するものですが、こんな話があります。

クランボルツ教授という人の「**計画的偶発性理論**」というもので『個人のキャリア（人生）の約8割は予想しない偶然の出来事によって決定される。そして、その**偶然を計画的に設計して自分のキャリアを良いものにしていこう、というキャリアを積み重ねていく上でのポジティブな考え方**』の話です。

偶然とは言いながら、実は**いい偶然に出会う人と出会わない人**がいるそうです。そしてそれは**普段の行い（習慣）の違い**によるものと考えられています。いい偶然に出会うためには、行き当たりばったり**に偶然をただ待つだけでなく、周囲の出来事にアンテナを張って神経を研ぎ澄ましたりして、偶然を意図的に作り出すように行動することが大切**だそうです。（偶然を作るというのも少し変な話ですが、偶然の確率を高めるぐらいに解釈すればいいかと思います。）

これを実践するために**必要な行動指針**として、クランボルツ教授は次の5つを掲げています。

好奇心：常に新しいことに興味・関心を持ち追求する。

持続性：納得がいくまで、たとえ失敗しても努力し続ける。

楽観性：新しいチャンスは実現する、可能になるとポジティブに考える。

柔軟性：こだわりすぎず、姿勢や状況を変えることを進んで取り入れる。

冒険心：失敗を恐れずまずはやってみる。

この5つの行動指針を見てみると、簡単そうでなかなか難しく、全てこの通りに行動するのは無理だなとあきらめたくくなります。でも、まずは新しいことを怖がらず、失敗してもめげないで、すぐに行動する習慣をつけることだと思います。そうした姿勢で常にアンテナを高く立てていれば、**自分に有用な情報や人が向こうからやってくる**のではないのでしょうか。

「幸せは歩いてこない。だから歩いて行くんだよ。」と昔の歌にもありました。今一度、行動を見直して**いい偶然を意図的にたぐり寄せて**行きましょう。